

N
I
E

実 践 報 告 書

2021 (令和 3) 年度



Newspaper in Education

群馬県N I E推進協議会

NIE 実践報告書

2021 (令和3) 年度



Newspaper in Education

群馬県NIE推進協議会

Contents

ごあいさつ	群馬県 NIE 推進協議会 栗原 幸正	
教育活動を充実させるための手段としての NIE の活用 館林市立第二小学校.....		6
学習意欲を高める工夫 ～新聞への俳句の投稿や出前授業など、 学習をより充実させる活動を通して～ 館林市立第八小学校.....		10
自ら考え、共に学びを高め合う児童の育成 －新聞を活用した授業や新聞への投稿を通して－ 安中市立松井田小学校.....		14
「正確に読み取り、表現できる児童の育成」を 目指すための NIE の活用 ～新聞に親しむ、慣れる、触れる活動を通して～ 太田市立綿打小学校.....		18
「自己のよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を 目指すための NIE の活用 ～「ニュース de 道徳」を活用した道徳の授業を通して～ 甘楽町立甘楽中学校.....		22
新聞を用いて実社会とのつながりを考える教科指導の取り組み ぐんま国際アカデミー中高等部.....		26
新聞記事を活用して、自分の考えをもったり、自分の意見を書いたり できる生徒の育成 沼田市立薄根中学校.....		30
「新聞を通じた企業の分析能力の育成」 群馬県立高崎商業高等学校.....		34
本校における NIE の取り組み 学校法人群馬常磐学園 常磐高等学校.....		40



ご あ い さ つ

群馬県NIE推進協議会 栗原 幸正
(高崎健康福祉大学人間発達学部 教授)

令和3年度は日本中の教育関係者がこれまでに培ってきた英知を駆使して、コロナ禍においての児童・生徒の学びの保障に全力を投じた1年と言うことが出来るのではないのでしょうか。群馬県においても、非常事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令・施行される中で、各校の先生方は日々徹底した感染防止策を講じて、子どもたちの学習環境を少しでも安全・安心となるようにと日々取り組まれておられました。それだけでも大変な仕事量ですが、それに加えて学びの質が決して落ちることのないように全力で学びの確保に立ち向かわれていた先生方の姿が特に印象に残っております。おそらくそのような姿は群馬にとどまらず日本全国で見ることができ、児童・生徒の育成に真摯に取り組む日本の教員の底力が発揮されたと言っても過言ではないかと思います。昨年以上に、群馬の、そして日本の教員一人一人に大きな拍手を贈りたい気持ちで一杯です。

さて、このように先生方がコロナ禍の中で奮闘努力される中、改めてNIE教育の真価が問われる社会状況が表面化して参りました。それは、コロナ禍による自宅生活時間の延長によりネットに頼る割合が増えたためか、ネットを感情のはけ口にしたり、お金稼ぎの道具にしたりする素人が情報発信側に大量に参画し始めたことで、情報の信頼性や確実性が大きく揺らぐ状況へと陥ってしまったと言うことです。それと相次いで世界情勢も大きく変動したことにより、情報の信憑性も問われる事態に陥り、情報発信側の信頼性確保はますます難しくなっております。そこで、情報の受け手側の私たち一人一人が情報を吟味する審美眼を持つ必要が迫られていると言えます。

しかしながら、情報の真偽を吟味する力は、一朝一夕に育成できるものではありません。今こそ情報の信頼性と確実性を内包する新聞の存在意義をより高め、その新聞を教育に取り入れることで、子どもたちの情報を読み取り、吟味する力を育成する事が以前にも増して大きくなっていると言えます。令和3年度に厳しい教育環境の中で、この実践報告書に示された、実践指定校のNIE充実に向けた挑戦は、情報を吟味できる子どもたちを育成する、確かな1歩となったと言うことができると確信致しております。

令和3年度は、実践指定校として、小学校4校、中学校2校、高等学校2校、中高連携校1校に、骨太のNIEの実践を繰り広げていただきました。特に注目に値するのは多くの学校が日常的・継続的に新聞記事に対峙させ、投稿や応募を通じて体験的にNIEに取り組んでいる点です。また、児童・生徒のニーズや授業としての必要性に基づいて新聞を授業に活用するなど、形式的ではない本物のNIEの実践を生み出そうとする傾向が存在し、各校でのNIEへの熱い思いを感じざるをえません。ご協力いただきました関係新聞各社をはじめ、実践に臨まれた各学校の先生方や児童生徒、そして保護者や地域の皆様方に、心よりお礼申し上げます。

今後も、「継続は力なり」という教育の特質を生かして、本協議会の活動がより広く、より意義深くなることを願っております。

教育活動を充実させるための手段としてのNIEの活用

館林市立第二小学校

関野 利男

1 はじめに

本校は、群馬県東部・館林市の中心部に位置する、児童数288名、14学級の小学校である。筆者（校長）は、日本新聞協会のNIEアドバイザーを務めており、豊かな体験活動とそれらを基にした表現活動の推進に力を入れている。また、筆者は、前々任校・前任校でもNIEに取り組んでおり(*1)、前任校ではNIE実践指定校の認定を受けている。本校は、本年度、NIE実践指定校の認定を受けたが、NIEには昨年度から取り組んでいる。(*2)

2 基本的な立場・考え方

(1) 新聞は「教材」の宝庫である

新聞に掲載されている記事の内容は、小学校の全学年・全教科・全領域の教育活動と関連している。また、記事の表記は、文章表記のお手本である。新聞は、教育活動を充実の手段として活用できる豊かな可能性を持っている。

(2) NIEは教育活動を充実させるための一つの手段である

NIEの活用を目的化してしまうと、教育活動が矮小化されてしまう。NIEは教育活動を充実させるための一つの手段であるという立場に立つと、NIEの活用の規準が明確になる。すなわち、教育活動を充実できる場合に限定して活用すればよいのである。

(3) NIEを広義に捉える

NIEの「N」(Newspaper)を「新聞」と限定的にとらえるのではなく、「新聞にかかわる人・もの・こと」と広く捉えると、NIEの可能性が大きく開かれる。

(4) 子どもが新聞と関わる機会を強くする

NIEを、授業に「新聞」の記事を活用するという立場に限定してしまうと、NIEの豊かな可能性を狭めてしまう。とりわけ、小学校においては、なおさらである。小学校では、子どもたちと「新聞」とのかかわりが強まるような活用をしていくことが大切である。そして、そうすることが、中学校以後のNIEの充実をもたらすことにつながる。

3 実践の概要

(1) こども新聞の活用と新聞コーナーの設置

NIE実践指定校に認定されると、実践者の数に応じて、群馬県では、朝日、毎日、読売、日経、東京、産経、上毛各社の新聞を無料で購読することができる。

- 実践者の数（1～2人） 1 銘柄につき1部を延べ2か月
- 実践者の数（3人以上） 1 銘柄につき1部を延べ4か月

その際、銘柄をこども新聞にすることもできる。

そこで、本校では、子どもたちの「新聞」へのハードルが低くなるように、朝日、毎日、読売、日経については、こども新聞を選択している。

また、それらの「新聞」が、子どもたちの眼に止まるように、



【図書室】



【児童玄関前】

図書室のほか、児童玄関前にも、「新聞コーナー」を設置している。

(2) 出前授業

本校では、子どもたちの学習をより充実させるために、専門家の力を活用する出前授業を積極的に取り入れている。

4年生の校外学習では富岡製糸場と群馬県立自然史博物館を、5年生の社会科見学では上毛新聞社と織物参考館「紫」を見学するが、見学に先立って、見学先について豊富な取材資料等を持っている新聞記者を招き、見学のポイント、メモや質問の仕方、見学のまとめ方などの授業をしてもらっている。また、6年生の尾瀬ネイチャーラーニングにおいても、何度も尾瀬に取材に行き、尾瀬の豊富な取材資料等を持っている新聞記者を招き、尾瀬の見所、尾瀬の歩き方、学習のまとめ方などの授業をしてもらっている。

新聞記者による出前授業のおかげで、校外学習や社会科見学、尾瀬ネイチャーラーニングが充実したのはもちろんのこと、学習や見学後のまとめも、大変充実したものとなった。また、毎年、同じ新聞記者に出前授業をしてもらっていることで、出前授業自体が深まるとともに、教員の負担軽減にもつながっている。

なお、本校では、昨年度、朝日新聞の読書推進企画「オーサービジット2020」に応募し、全応募の中から唯一1校に選ばれて、池上彰さんの特別授業を実施することもできた。



(3) 投稿

本校では、「全校俳句作り」に取り組んでいる。校長自ら、全学級で俳句の授業を行い、その後、毎週金曜日に俳句用紙を配布し、翌週に提出させている。俳句用紙には、二句書くことができるが、一句でもよく、



提出も強制ではなく、子どもたちの自由意思である。提出された俳句は、校長が、すべて学校だより「ポプラ」に掲載し、発行するとともに、上毛新聞「上毛ジュニア俳壇」に投稿している。そこで選ばれた俳句は、上毛新聞「朝の一句」に顔写真とともに掲載されたり、「ジュニア俳壇」に掲載されたりしている。一昨年（４～１２月）は、朝の一句１６句、上毛ジュニア俳壇４９句、昨年（１～１２月）は、朝の一句２３句、上毛ジュニア俳壇８４句が掲載された。（*3）

また、各学級担任が、学校行事や体験活動の後に書かせた作文や日記などの中で、よく書けているもののコピーを校長に提出することになっている。提出された作文等は、校長が、上毛新聞「みんなのひろば」に投稿している。そこで選ばれた作文等は、上毛新聞「みんなのひろば」に掲載されている。昨年度（４月～３月）は延べ３５８人、今年度（４月～２月末現在）は延べ２９０人の作文が掲載された。

自分の書いた俳句や作文、日記などが、新聞に掲載されることの教育的効果は、非常に大きい。子どもたちの自信となり、自己肯定感を高める。また、保護者等の喜びを通して、親子の会話のきっかけ作りにもなれば、新聞を身近な存在と感じるようになり、新聞との関わりも強くなる。そして何より、子どもたちの創作意欲や執筆意欲の向上にも、計り知れない効果がある。

そのほか、科学に関する質問を上毛新聞「週刊風っ子」に投稿し、「横山教授に聞く科学のふしぎ」のコーナーで、丁寧に解説していただいている。昨年度（４月～３月）は６人、今年度（４月～２月末現在）は１０人の質問が掲載された。

（４）応募

新聞記事を読む機会を作る試みとして、日本新聞協会の「いっしょに読もう！新聞コンクール」と上毛新聞社の「群馬県小中高生新聞感想文コンクール」に取り組んでいる。

日本新聞協会の「いっしょに読もう！新聞コンクール」には、昨年度は、５・６年生が取り組み、個人奨励賞と学校奨励賞を受賞した。今年度は、６年生が取り組み、個人奨励賞と学校奨励賞を受賞した。

また、上毛新聞社の「群馬県小中高生新聞感想文コンクール」には、昨年度、５・６年生が取り組み、小学校高学年の部で、１名入選した。今年度は、２～６年が取り組んだ。

（５）「よみとき新聞ワークシート」の活用

理想科学工業株式会社の新聞教材係が運営する「よみとき新聞ワークシート」に会員登録し、朝日学生新聞社、朝日新聞、茨城新聞社、上毛新聞社、新潟日報社、山陽新聞社、中国新聞社が作成している「よみとき新聞ワークシート」の提供を無料で受けている。

「よみとき新聞ワークシート」は、新聞記事をもとに、問題を作成したワークシートで、毎週提供される。また、学年や教科等が明示されているので、必要なワークシート

[illegible]

筆者は、2019年度から3年間、NIE全国大会に参加し、公開授業や実践発表等の参観や視聴を通して、教育活動を充実させる手段としてのNIEの豊かな可能性を再認識してきた。また、新聞各社が、学校教育に役立つさまざまな取組を提供してくれていることを知ることにもできた。(*4)

具体的な実践を通して、これらを多忙な現場の教師たちに広め、一人でも多くの教師が、教育活動を充実させるための手段として、NIEを効果的に活用していくようになるよう、地道な取組を継続していきたい。

(*2) 御山まゆみ「作品投稿 新聞身近に 館林二小」上毛新聞 2022年1月10日 8面

(*3) 館林市立第二小学校「第19回ジュニア上毛賞 文学賞・俳句」受賞 2022年3月26日

(*4) 関野利男「N I Eの可能性 再認識」上毛新聞 2019年8月21日 12面

関野利男「充実した教育への手段」上毛新聞 2020年12月13日 9面

関野利男「教育充実の手段に」上毛新聞 2021年9月10日 7面

学習意欲を高める工夫

～新聞への俳句の投稿や出前授業など、学習をより充実させる活動を通して～

館林市立第八小学校

北村

聡

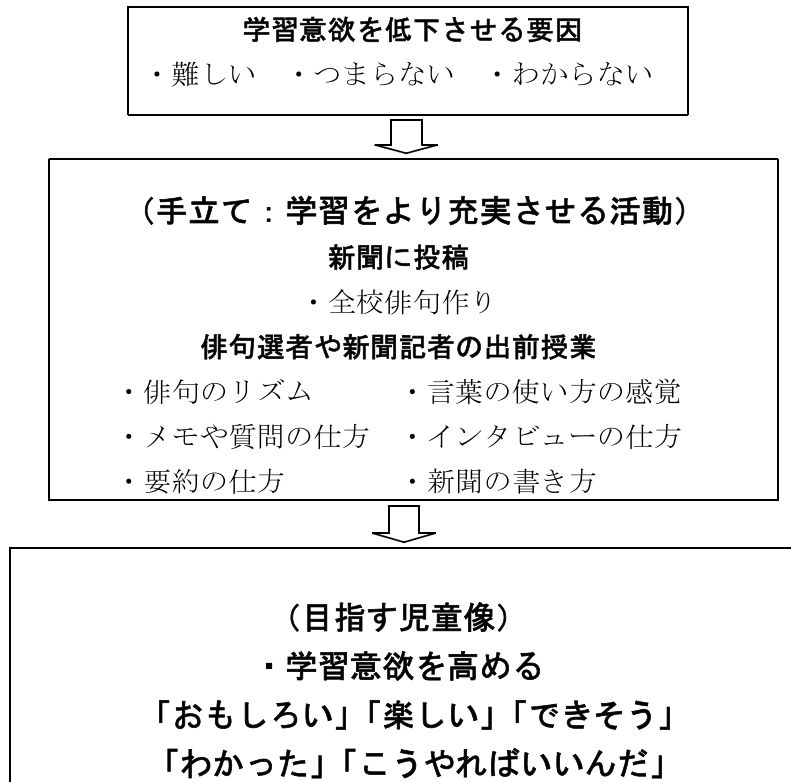
1 はじめに

本校は、群馬県の東部、館林市の西方に位置し、周辺には県内唯一の白鳥飛来地である多々良沼や松林、県立館林美術館などがある。児童数488人、21学級の小学校である。子どもたちの学習をより充実させるため、3年間継続して、NIE実践指定校になり取り組んできた。

2 実践の概要

小学校学習指導要領の「主体的な学び」において、本校の課題は、学習意欲を高めることである。児童の実態として、学習意欲の高い児童と低い児童が二極化されており、低い児童への指導・支援が必要である。そこで、本校の課題を解決するため、具体的に、「おもしろい」「わかった」「こうやればいいんだ」と児童が実感できるよう、学習意欲を高める工夫をすることが必要である。その手立てとして、新聞への俳句の投稿や、出前授業を実施し、その教育的効果を検証していく。(図1参照)

(図1) 目指す児童像



3 新聞の置き場所と整理の方法

(1) 新聞コーナーの設置

児童の往来が頻繁な職員室前の廊下に、新聞コーナーを設置した。教室で使う児童用のロッカーを活用して、整理している。(写真1)

(2) 新聞の整理

自由に新聞を活用できるようにするため、「新聞貸し出し簿」を用意し、教職員や児童が自由に新聞を借りられるようにした。主な貸し出し内容として、高学年による、朝や帰りの短学活での1分間スピーチに活用されていた。(写真2)



(写真1) 児童用ロッカーの活用

12月4日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
12月5日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
12月16日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月4日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月19日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月21日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月27日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月28日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
1月28日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ
2月5日	5-1	上毛	朝日	毎日	産経	小学生	スピーチ

(写真2) 新聞貸し出し簿

図書室内に新聞を掲示し、誰でも児童が自由に新聞を読めるようにしている。また、児童の興味・関心を高めるため、図書室の廊下に新聞コーナーを作り、常に新聞が児童の目に付くように工夫している。読み終わった新聞は、職員室前のロッカーに収納している。(写真3、4)



(写真3) 図書室内の新聞コーナー



(写真4) 図書室廊下の新聞コーナー

4 実践の内容

(1) 新聞記者による「出前事業」

子どもたちの学習をより充実させるために、専門家の力を活用する「出前授業」を、積極的に取り入れた。今年度は、4年生から6年生の3学年を対象に、1学期と2学期に新聞記者を招いて「出前授業」を実施した。

【4年生】

1学期：国語科「新聞を作ろう」

新聞の特徴と作り方を知り、伝えたいことが明確になるような文章を書くため、上毛新聞記者による出前授業を実施した。具体的に、タイトルの書き方や記事になる情報の見分け方等を学習した。授業前と授業後に、アンケート「新聞作りは好きですか」を実施した。授業前：はい39人、いいえ46人→授業後：はい55人、いいえ30人

※「はい」と回答した主な理由

- ・新聞記者の授業を受けて、新聞作りが楽しそうだった。

- ・PCで調べたことをまとめるのはつまらなかったが、現地調査やインタビューなどの方法を授業で知って、楽しそうだと思った。・新聞を書くコツを教わり、書きたくなった。
- ・取材の方法がよく分かり、楽しかった。

※「いいえ」と回答した主な理由

- ・新聞は文字を多く書かなければいけない。・字を書くのがめんどろ。・興味がもてない。

2学期：総合「富岡製糸場の歴史」と「県立自然史博物館」について

「富岡製糸場」と「県立自然史博物館」について、写真やデータを活用して、歴史や文化等についてわかりやすく説明してもらった。授業後、アンケート「出前授業は役に立ったか」を実施した。役に立った53人、役に立たなかった15人

※「役に立った」と回答した主な理由

- ・説明が分かりやすく、役立つ事が多かったので勉強が楽しくなった。
- ・校外学習の見どころを教えてもらったので、とても楽しく見学できた。

※「役に立たなかった」と回答した主な理由

- ・説明が難しかった。・分からない言葉があり難しかった。

【5年生】

1学期：国語科「新聞を読もう」

新聞の特徴や紙面構成等を理解するため、上毛新聞記者による出前授業を実施した。具体的に、新聞の上手な見方や記事の構成等を学習した。授業前と授業後に、アンケート「新聞を読んでみようと思いますか」を実施した。授業前：はい14人、いいえ7人→授業後：はい48人、いいえ40人

※「はい」と回答した主な理由

- ・うそのニュースの見分け方が分かって面白かった。
- ・新聞の上手な見方を教わって楽しかった。・新聞の見方が分かったので読んでみたい。
- ・新聞はネットより正確であることが分かった。
- ・テレビやネットに頼らないで、新聞から情報を見つけようと思った。

※「いいえ」と回答した主な理由

- ・新聞を取っていない。・興味が無い。・字が小さい。・読むのがめんどろである。
- ・パソコンやスマホでニュースが見られる。

2学期：総合的な学習の時間「群馬県庁」や「桐生の織物工場」

「群馬県庁」や「桐生の織物工場」について、豊富な取材資料などを提示し、見学のポイント、メモや質問の仕方、見学のまとめ方の授業を行った。授業後、アンケート「出前授業は役に立ったか」を実施した。役に立った59人、役に立たなかった26人

※「役に立った」と回答した主な理由

- ・見学場所について興味がもてた。
- ・のこぎり屋根の仕組みを事前に説明してもらい知っていたので、見学した時、「これか。」と思った。

※「役に立たなかった」と回答した主な理由

- ・内容が難しくよくわからなかった。

【6年生】

1学期：総合「多々良沼のパフレットを作ろう」

パンフレットの特徴と作り方を知り、伝えたいことが明確になるように文章を書くため、上毛新聞記者による出前授業を実施した。具体的に、テーマの見つけ方や内容の構成について学習した。授業前と授業後に、アンケート「パンフレット作りは好きですか」を実施した。授業前：はい34人、いいえ50人→授業後：はい63人、いいえ21人

※「はい」と回答した主な理由

- ・テーマが思った以上に浮かび、パンフレット作りがおもしろそうだった。
- ・多々良沼について歴史等を知り、新しい発見がたくさんあった。
- ・多々良沼を取材したり、グラフや写真を使って表したりするのが、楽しそうだった。
- ・やっぱり新聞記者はすごいと思った。見出しのタイトルはすぐひらめくし、構成もすぐ決められ驚いた。
- ・授業を受けて、世界に一つだけのパンフレットを作りたいと思った。

※「いいえ」と回答した主な理由

- ・文を書くことや内容を考えることに苦手意識がある。・書くのがめんどうだ。

2 学期：修学旅行先の日光東照宮の歴史や見所について

「日光東照宮」について、画像を駆使しながらクイズを交え、児童の関心を高める工夫が随所にちりばめられていた。授業後、アンケート「出前授業は役に立ったか」を実施した。役に立った59人、役に立たなかった20人

※「役に立った」と回答した主な理由

- ・修学旅行がとて楽しくなった。。・日光の歴史にとて興味があいた。
- ・東照宮見学の途中、出前授業を思い出し「ここは、こんな説明だったな。」と詳しく見学できた。

※「役に立たなかった」と回答した主な理由

- ・専門用語が多く、内容が難しくよくわからなかった。

(2) 新聞に投稿(記事の発信)

本校では、「全校俳句作り」に取り組んでいる。提出は子どもたちの自由意志である。提出された俳句は、校長が、すべて 学校だよりに掲載するとともに、上毛新聞「上毛ジュニア俳壇」(資料1)に投句している。(5, 869投句し、新聞に55句掲載された。)

5 実践の成果と今後の課題

【成果】

- ・専門家による出前授業を実施したことで、専門的知識や、豊富な情報を提供することができ、児童学習意欲を高めることができた。
- ・上毛新聞記者による出前授業は、どのような視点で物事をとらえたらいいのか、また、物事をとらえる考え方を育成するのに役立った。このことは、学習活動の質を向上させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のヒントとなった。
- ・語感や言葉の使い方に対する感覚を養うための「全校俳句作り」は、感じたことや想像したことを書くことで、言葉のリズムに親しむことができるなど、児童の言語活動を充実させ、言葉の意味や使い方に着目して自分が感じたことや想像したことを表現することに役立つ事ができた。

【課題】

- ・教育的効果が認められたため、年間指導計画に位置付け、意図的・計画的に実施する。
- ・授業のねらいと児童の実態を伝えるため、事前の打ち合わせを十分行ってから授業を実施する。

自ら考え、共に学びを高め合う児童の育成

－新聞を活用した授業や新聞への投稿を通して－

安中市立松井田小学校 報告者

上原 久志

島田 淑子

山内

隼

1. はじめに・実践の概要

本校は、旧松井田町の商店街に位置し、全校児童 75 名の小規模校である。近年、本校を含め、近隣校の児童数が減少してきている。そのため今年度末をもって、本校、白井小学校、九十九小学校がそれぞれ閉校し、新年度より全校児童 126 名の新しい松井田小学校としてスタートすることとなっている。

本校では、5、6年生を中心に、上毛新聞への作文や俳句の投稿及び授業等での新聞の活用を行い、自ら考え、共に学びを高め合う児童の育成に努めてきた。

2. 実践の内容

(1) 校長の取組

年度始めの職員会議において、学校経営方針の「今年度の重点」の一つとして、「新聞を教材として活用し、語彙力や表現力、情報活用能力を育むN I Eの推進」を位置づけた。そして、5、6年生を中心にNIEを推進していくことを全職員で共通理解を図った。

また、1学期の始業式において、昨年度、上毛新聞に掲載された本校児童2名の俳句を紹介し、「今年は、上毛新聞に作文や詩、俳句、短歌などを積極的に投稿していこう。」と呼びかけた。

その後、5、6年生を中心に、担任から提出された児童の作品を上毛新聞社に投稿した。



[新聞に掲載された作品を児童玄関近くに掲示]

(2) 5年生の取組

① 国語の単元「新聞を読もう」

- ・新聞の構成や記事の書かれ方を確認した。
- ・同じ内容の記事を2紙で見比べ、地元紙（上毛新聞）と全国紙での取り上げ方の違いについて考えた。
- ・興味をもった記事を選んで読み、要旨をまとめ、感想を書いた。（朝活動の時間や宿題なども含め10回ほど）



[教室後ろロッカー上に新聞を置く]



[地方紙と全国紙の比較]



[興味を持った新聞記事の切り抜き]

② 国語の単元「冬の朝」

- ・冬を表す言葉や俳句を学習した後、俳句を作り、投稿した。

③ 朝活動「読書タイム」の時間を活用

- ・「読書タイム」の時間に、新聞を読む日を設定した。

④ 帰りの会で記事を紹介

- ・日直が、その日の新聞に目を通し、興味を持った記事を選んでおき、帰りの会で紹介をした。(右写真)



(3) 6年生の取組

① 新聞記事の紹介、感想の交流

- ・自分が興味を持った記事を選んで紹介するとともに、タブレットなどを使い、感想の交流を行った。

また、東京オリンピックや北京オリンピックが開催されていたとき、オリンピック関連の記事の共有を図った。

② 道徳科の授業での活用

- ・道徳科の授業において、考えの参考資料として記事を活用した。

③ 上毛新聞社への作文等の投稿

- ・6年生になったの抱負や数ヶ月経っての振り返り、また、学校行事を終えての感想など、テーマを決めて作文を書き、上毛新聞社に投稿した。

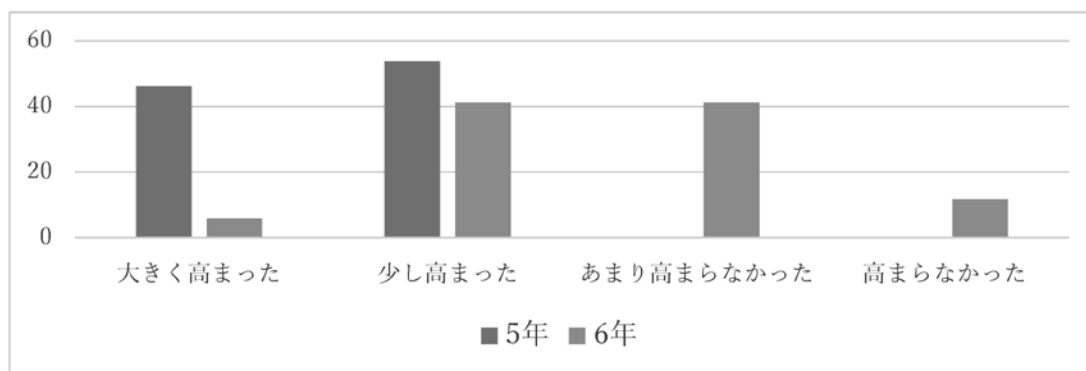


[タブレットで投稿原稿を作成]

3. 実践の感想と今後の課題

NIEの活動を進めてきて、1月に、5、6年生及び各担任を対象にしてアンケートを行った。

- (1)「授業など(帰りの会等も含む)で新聞を活用してきたことで、新聞に対する興味は高まりましたか?」という質問に対する回答は以下のグラフのとおりである。



また、理由として、次のようなことが挙げられた。

[大きく高まった] 理由

(5年生)

- ・ニュースとはちがって、自分のペースで読めることや自分で読んだ方が内容がわかりやすいことに気づいたから。

- ・新聞のいいところがたくさん分かるようになったから。自分の作品や友達作品を見つけると、とてもうれしかったから。
- ・日常生活ではあまり新聞を活用する機会がなかったけれど、学校でこの勉強を始めて、新聞を手にとることが多くなったから。

(6年生)

- ・新聞は、いろんなことが知れて、すごく役に立って、それなのにすごくおもしろいからです。

[少し高まった] 理由

(5年生)

- ・家で新聞を読むことがないから、学校にある新聞を読んで、テレビとかで見ない内容などを見られるから。知ることが前より増えたし、おもしろい記事もあるから。
- ・いつもしっかりと読んでいなかったから、新聞を改めてしっかりと記事を読んでいると興味がわいてきたから。
- ・今まで家で新聞を読んだりすることがなかったけど、授業などで新聞を活用してみて、ちょっとおもしろいなと思ったり、家でも少し読もうかなと思ったから。

(6年生)

- ・ふだん新聞をあまり見ないけれど、上毛新聞は群馬のこと（良いところ・悪いところ）を知れて、とてもためになると思ったから。
- ・授業で、オリンピックやパラリンピックの新聞を見て、詳しいことがたくさん書いてあったから。
- ・これまで新聞を活用することはあまりなかったので、授業などで新聞を読み、ニュースを見て分かったり、文の書き方などが参考になったりしたから。

[あまり高まらなかった] 理由

(6年生)

- ・もともと少し読んでいたけど、この新聞活用によって興味が高まったわけではない。
- ・記事の内容に、興味がわくものとあまり興味がわかない内容のものがあったり、本文の文字が小さくて読みにくかったからです。
- ・あまり新聞を読まなかったからです。

[高まらなかった] 理由

(6年生)

- ・あまり新聞を読むことがなかったから。

(2)「上毛新聞に作文や俳句などを投稿して、自分の作品が紹介されてどんなことを思いましたか？」
という質問への回答は以下の通りである。

(5年生)

- ・達成感があって、これからも作文や俳句を作ることがんばりたい。
- ・おばあちゃんたちが見てくれたり、いろいろな人たちにってもらって、「自分がいるよ」という感じでうれしく思った。
- ・いつも見ている上毛新聞に、自分の話が紹介されてうれしかった。近所の人から「新聞に載ってたよ！」と言われることもあってうれしかった。

(6年生)

- ・今まで自分の作品に自信がなかったけれど、投稿されて少し自信がついた気がしました。
- ・自分の考えが新聞に載って、新聞を見ている人に自分の考えが伝わるといいなと思った。

- ・すごくうれしかったし、載せてくれた人たちに感謝したいなと思いました。

(3)「いろいろな新聞を見たり、授業などで活用したりしてきたことを通して、学んだり感じたりしたことを書いてください。」という質問への回答は以下の通りである。

(5年生)

- ・新聞を見てきて、分かりやすいように工夫して書いてあったりしていたので、作文を書くときに学んだことを生かしていこうと感じました。
- ・最初は新聞の読み方も分からなかったけど、授業で習ったら、新聞を読むようになったし、漢字もいろいろ読めるようになった。
- ・知らない新聞もあって、たくさんの新聞を読み比べて、新聞ておもしろいなと思った。文の書き方なども新聞でたくさん学ぶことができた。

(6年生)

- ・いろいろなジャンルで細かく分かりやすくまとめられている。構成がしっかりとしているから、授業で活用するときに便利。
- ・見出しやリード文など、授業でつくるときの新聞で活用できると思った。
- ・新聞を読んで、今の社会を知ることが大切だと思いました。

(4) 各担任に「NIE の取組を通して、実践者として感じたことを書いてください。」という質問への回答は以下の通りである。

(5年担任)

- ・新聞が届くようになったのが、ちょうど国語の「新聞を読もう」の学習に入るときだったので有効に活用できた。
- ・新聞を取っていない家庭も多く、普段読む機会があまりない児童が多いが、今回の取組により新聞が身近なものとなり、新聞の良さを実感したようである。また、行事の振り返りや学習のまとめを投稿の記事と兼ねて書くことを継続したことで、子ども達は文章を書くことに慣れ親しむことができた。

(6年担任)

- ・投稿を意識させることで、推敲への意欲が高まり、考えを深めたり、よりよい表現で考えることができた。
- ・児童に考えさせたいこと、調べさせたいことをまとめさせるときの資料になる。
- ・適切に指示できないと、追求したいこと以外の部分に時間がとられてしまうので、活用には準備がいる。

(5) 校長の感想

今年度、初めて NIE の取組に参加させていただき、5、6年生を中心に、授業等での新聞活用や上毛新聞への投稿を行った。

新聞への投稿については、自分の作品が新聞に載るという本人の喜びや次の作品への意欲、友達の作品が載るという喜び、家族や地域の人から声をかけられる喜びなど、よい効果をたくさん実感できた。

授業等での新聞活用については、子ども達が日常的に新聞に触れる機会を提供することで興味を持たせることができ、新聞の良さを子ども達に感じ取らせることができると思った。

来年度は、教職という多忙な業務の中で、教員にとっても負担感なく、そして子どもたちにとって有意義な新聞活用の方法を探っていきたい。

「正確に読み取り、表現できる児童の育成」を目指すためのNIEの活用 ～新聞に親しむ、慣れる、触れる活動を通して～

太田市立綿打小学校

小泉こずえ

1. はじめに

本校は、群馬県の東部、鶴舞う形の首の付け根に位置する太田市の中で最も西部に位置し、豊かな田園風景と湧水や国指定館跡など歴史的な遺跡が点在する長閑な環境にある。全校児童数441人、19学級の小学校である。協力的な綿打地区の地域に開かれた学校づくりの核として、積極的な発信を心がけ、子ども達自身にも自らの考えを表現する力を育成したいと考え、前年度よりNIE実践校として取り組んできた。

2. 実践の概要

本校の研修テーマである「正確に読み取り、表現できる児童の育成」をめざす一環として、新聞を授業に取り入れ有効活用し、読解力や表現力の育成とともに、読み比べたり投稿したりする活動を通して意欲の向上につなげたいと考えた。また、新聞に触れる機会を増やし、新聞に親しみそのよさを実感する場面を意図的に設けることで、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、感受性や発信力の育成にもつなげたいと考えた。

具体的には、次の3点を柱とした。

- (1) 新聞に親しむ・・・新聞への投句・投稿の奨励、給食時の放送
- (2) 新聞に慣れる・・・新聞記者による出前授業、印刷センター見学
- (3) 新聞に触れる／活用する・・・授業での新聞の活用

3. 新聞の置き場所と整理の方法

子ども達の往来が多い職員室前の廊下にコーナーを設置し、7紙が届く間は、前日分と当日分を置き、誰でも自由に閲覧できるようにした。(写真1) その後、高学年フロアの廊下に置き、高学年児童が自由に閲覧したり授業で活用したりできるようにした。(写真2)

バックナンバーは、会議室に種類ごとに置き、職員が授業等で活用できるようにした。(写真3)



【写真1：職員室前の閲覧コーナー】



【写真2：高学年フロアの閲覧コーナー】



【写真3：バックナンバー保管コーナー】

4. 実践の内容

(1) 新聞への投句・投稿の奨励、給食時の放送

児童が自分を見つめたり周りの事を意識したりして、自分の思いを発信する一手段として、俳句・短歌の創作を奨励している。身の周りの自然や日常の一コマを切り取って表現する俳句は、どの学年でも取り組める創作活動であり、環境に恵まれた「郷土綿打」は格好の材料が豊富にある。

また、朝行事の中で「NIE の時間」を設定し、全クラスで新聞記事に親しむ時間を設けた。低学年では、クイズ形式で内容を確認する等の手立てにより、読み取りにつなげることができた。新聞を通して、身の回りの様々な出来事に興味をもち、新聞を活用した自主学習に取り組む児童も見られた。(写真4) 高学年では、記事に対する自分の考えを意見文にまとめた。特に、環境問題や平和についての記事では児童の関心が高く、子ども達同士で意見交流する姿が見られた。新聞記事について分からないことをタブレットで調べるなど、意欲的な取組が見られた。(写真5)

これらの作品は、担当がまとめて上毛新聞社の「ジュニア俳壇」「青春短歌」「U22 私の声」に投稿している。掲載されたことを家族や祖父母が喜んでくれたと報告があったり、記事を読んだ感謝の手紙が学校に寄せられたり、新聞に載る効果の広がりも実感している。

今年度は、代表委員会の児童がお昼の放送を行い、給食時にも新聞に親しむ時間を設けた。(写真6) 自分が選んだ記事を「気になるニュース」として放送し、紹介した記事は職員室前に掲示して読めるようにした。(写真7) 出来事だけでなく、生き物や鉄道についての特集記事を紹介することで、新聞には様々な情報が掲載されていることを伝えることができた。



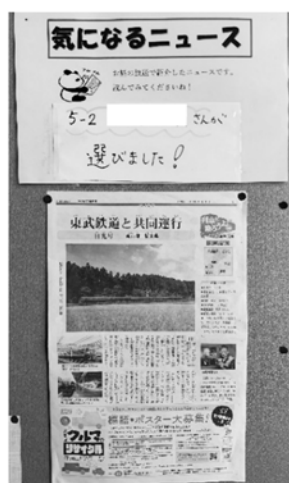
【写真4：NIE の時間 低学年のクラス】



【写真5：NIE の時間に記事の内容について
タブレットで調べる児童】



【写真6：給食時の放送】



【写真7：気になるニュースの掲示】

(2) 出前授業、印刷センター見学

3年生が、総合的な学習「綿打たんけん隊」で、地域の史跡に出かけるのにあたり、メモの取り方を学ぶために、上毛新聞社のNIE担当の新聞記者を講師として授業を行った。子ども達が訪れる矢太神沼や江田館跡などを事前に周り、様子を画面に映し出しながらの授業で、児童は、見学のポイントやメモの取り方について実際の活動で生かすことができた。

また、4年生も、国語科「新聞を作ろう」で、記事の書き方について学ぶために、上毛新聞社の新聞記者を講師として授業を行った。アンケートの取り方やアンケート結果の活用の仕方について具体的に指導してもらい、他教科でもアンケートを活用する姿が見られるようになった。

さらに、5年生は、国語科「俳句を作ろう」の学習で、上毛新聞俳句欄選者の鈴木伸一氏に特別授業をお願いした。俳句作りのコツや季語についての授業を通して、17音に情報を詰め込む面白さを発見し、たくさんの句ができあがった。

5年生は、社会科学習の新聞社の仕事についての理解を深めるために、伊勢崎市にある上毛新聞印刷センターへ見学にも行き、見てきたことを作文にまとめた。教科書で得た知識を実際に目で見て確認することは、大きな意義があった。



【資料1：鈴木伸一氏による授業の記事】

(3) 授業での新聞の活用

①2年生 国語科「漢字のつかい方と読み」

・ねらい

複数の読み方がある漢字について、ほかの言葉や漢字とのつながりを考え、使い方・読み方・意味などに着目して読めるようにする。

・展開

新聞記事を読み、同じ漢字でも読み方の違う言葉に気づかせる。
記事から見つけた言葉を使って短文を作り、交流する。



【資料2：新聞記事から見つけた言葉で短文作り】

②3年生 国語科「取材して知らせよう」

・ねらい：新聞記事を読むことを通して、文章から必要な情報を取り出せるようにする。

学習活動	教師の支援及び留意点
1 本時の課題を知る。	新聞にはいろいろな情報が載せられていたことを振り返り、本時は、各自が新聞からの情報を人に伝えることを知らせる。
めあて 新聞で分かったことを人に正しく伝えよう	
2 新聞記事の中から、伝えるために必要な情報を選ぶ。 3 情報を文章にする。	- 全員で、同一記事の練習をしてから各自の記事に取り組む。 - 伝えるために必要な情報に鉛筆で丸をつけることで、「いつ」「どこで」「何が」等、明確にする。 - 必要な児童には、国語辞典や虫眼鏡を利用するように伝える。 - 発表原稿をワークシートにし、必要な情報のみをまとめられるようにする。
4 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	次時は、クラスの皆に自分の見つけた情報を知らせることを伝える。



③5年生 社会科「自動車をつくる工業」

- ・ねらい：資料を参考に、根拠を明確にして、自動車会社が大切にすることを考えられる。

学習活動	教師の支援及び留意点
1 地図帳クイズをする。 2 本時のめあてを考える。	・問題を事前に用意し、手短に行う。 ・本時のプリントを配布し、内容を説明することで本時の見通しをもたせる。 めあて 新聞記事を読み、自動車会社が大切にすることをもう一度考えよう。
3 資料を確認し、書かれていることを簡潔にまとめる。(個人) 4 まとめたことをグループで伝え合い、発表者を決める。 5 資料について発表する。	・9つの資料から担当する資料を一つに絞る。 ・新聞記事を全員がよく見られるよう、あらかじめ各自のタブレットに入れておき、モニターでも映す。 

児童が読み取ってほしい新聞記事の内容（おおむね満足）

あみかけ は上位の児童（十分満足）

資料① 90歳がアクセルとブレーキを踏み間違えて事故を起こし、11人が死傷した。

資料② 8月「ヤリス」「ヤリスクロス」が売り上げ一位。小型車、小回りがきく、燃費性能が良い。(ほかの車も似ている)

資料③ 10月「ワゴンR」が売り上げ一位。金額1,000,000円。燃費25.2km/l

資料④ 自動運転のバスが事故を起こした。自動運転の技術は経験豊富な運転手にはまだ及んでいない。

資料⑤ 89歳がアクセルとブレーキを踏み間違えて事故を起こし、3人が死傷した。

資料⑥ バスとトラックのタイヤが走行中に外れる事故が10年間で12倍に急増した。

資料⑦ ガソリン価格が値上がりした。1ℓの全国平均小売り価格は169円ほど。

資料⑧ 電気自動車は走行中二酸化炭素を出さない。電気自動車は充電に時間がかかる。燃料電池自動車は補充場所が少ない。

資料⑨ 100年に一度の大変革期。ハンドルではなく手を置く。ななめや真横に走行可能。温暖化の影響を踏まえ、電気自動車に。

6 発表内容をもとに、もう一度自動車について考える。	・取り上げた新聞記事は一部の情報で、他にも多数の情報があることを伝え、様々な情報を取捨選択する必要性を説く。
----------------------------	--

5. 実践の感想と今後の課題

国語科の校内研修「正確に読み取り、表現できる児童の育成」を目指す取組の一環として、2年間NIEに取り組んできた。2年目の今年度は、昨年度よりも多くの児童が、職員室前や学年フロアのNIEコーナーで新聞を手取るようになった。写真や4コマまんがを見て笑ったり、政治やスポーツの記事をじっくり読んだり、新聞から多くの刺激を受けていた様子が見られた。また、投稿した俳句や意見文が新聞に掲載されることで、より意欲的に書く活動に取り組んだり、友達の掲載記事に対して自分の考えを伝えたり、切磋琢磨する子ども達の姿が見られた。さらに、新聞を通して時事問題に興味をもつ児童が増えたことも成果である。

この2年間の取組を今後も根付かせ、国語科以外でも多角的に新聞を活用できるような実践を続けていきたい。

「自己のよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を目指すためのNIEの活用 ～「ニュースde道德」を活用した道德の授業を通して～

甘楽町立甘楽中学校 大佐古倫徳

1. はじめに

本校は、第一中学校と第二中学校が統合して平成 28 年度 4 月 1 日に開校した学校である。甘楽町白倉の小高い丘に建ち、遥かに上毛三山を臨み、自然に恵まれた環境に立地している。全校生徒数 314 人、13 学級の中学校である。

学校教育目標の「学ぶ意欲を持ち心豊かなたくましい生徒の育成」を目指し、心づくりとして、道德推進教師を中心に「考え議論する」道德の充実を図り、生活に生きる取組を進めている。新聞を活用した道德の授業により、社会の出来事を身近に感じながら、本年度より新規 NIE 実践校になり取り組んできた。

2. 実践の概要

「考え、議論する道德」を通して、「自己のよりよい生き方を考えることができる生徒の育成」を目指すために、新聞を授業に取り入れ有効活用をしようと考えた。新聞に記載されている「ニュース de 道德」の記事を活用し、幅広い視点から時事の問題に触れられる道德を目指した。

3. 新聞の置き場所と整理の方法

生徒の往来が多い職員室前のホール（写真 1、写真 2）、2F の廊下に長机を設置し、コーナーを作成した。当日分の新聞を置き、誰でも自由に閲覧できるようにした。コロナ対策として、パーテーションとアルコールスプレーも設置し、安心して新聞を読むことができるようにした。前日の新聞は、下のかごに入れ保管した。1 週間経った新聞は、職員室のロッカーに保管し、いつでも活用できるようにした。



写真 1



写真 2

4. 実践の内容

(1) 道徳の授業での活用

①1年生 道徳「目標書いて努力」 R3 読売新聞8月11日(水)

- ・指導目標 目標達成には、努力と同時に自己の人間的成長が大切であることに気付
き、希望と勇気をもって、夢の実現へと歩もうとする態度を育てる。
- ・本時の展開

学習活動	指導上の留意点
1 学習のめあてを知る。 <学習のめあて> 目標を達成するために、何が大切 なのだろうか。 2 大谷選手の活躍について知る。	・学期の目標を立てたことから、目標を立て実行するということはどういうことか想起させる。 ・大谷選手を知らない生徒もいるため、岩手県（花巻東高校）、北海道（日本ハム）、米ロサンゼルス（エンゼルス）の位置関係を地図で示し、大谷選手の歩みを視覚的に伝える。実物の「目標達成シート」を配布し、自分でも考えてみる。 ・新聞記事を読み、大谷選手について知る（写真3）。
3 大谷選手がこれほどまでに米国で注目され、たくさんのファンから応援されるのはなぜだろう。 4 目標を達成するために、努力のほかに何が大切なのだろうか。	・数字上の活躍はもちろん、多様性（外国人選手の活躍や二刀流）を受け入れる米国人の考え方や、謙虚に感謝の気持ちを表す大谷選手の人柄にも注目させる。 ・練習に打ち込むひたむきな努力はもちろん大事である。だが、子どもたちには、それだけではない大切な何かを大谷選手の姿から感じ取らせたい。
5 今までの自分を振り返り、これからの自分を考える。	・ポートフォリオに、今までの自分を振り返り、これからどのような気持ちで行動していくかを考えるよう促す。（写真4）

- ・生徒の振り返り

【努力のほかに何が大切なのだろうか】

「自分の未来を想像してみる」「普段からの心がけ」「人を思う気持ちや態度」
「誰よりも練習して、誰よりも大きな自信をつくること」

【今までの自分・これからの自分】

「自分を認めて、直せるようにしたいと思ったし、目標を持ち続けて、今日やって、明日もやって、1年後やめていない自分になりたい。」

「目標を達成するには努力をすればできると思っていた。でも、大谷選手は感謝の気持ちや自信を持ってプレーしていると思う。努力や普段からの心がけを大切にしたい。」

「何をするにもやっていることが終わったら反省や振り返りをしっかりととして、その後に生かしていきたいです。それと、関わっている人たちに感謝の気持ちを忘れないようにしたい。」



写真3 読売新聞 R3 8月11日(水)

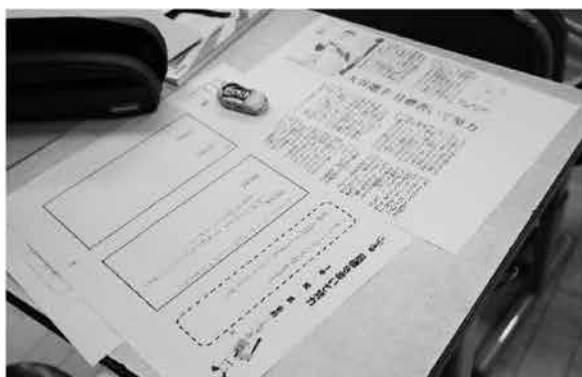


写真4 新聞記事を見ながら



1年1組での授業



1年2組での授業



1年3組での授業

(2) その他の活用

帰りの会で「今日のニュース」という時間を設定し、日直が新聞を見て気になったニュースを伝える活動を1年生と3年生で行った。生徒は、昼休みの時間に、「3. 新聞の置き場所と整理の方法」で記した職員室前のホールや2Fの廊下集まり、友達と相談しながら、伝えるニュースを考えている様子が見られた(写真5)。その際に、ニュースの概要をまとめるプリントを活用した。そのプリントには、「新聞社名」「新聞の日付」「記事

の見出し」「記事の概要」「選んだ理由／記事に対する感想や考え／賛成・反対の有無（可能ならば）」を記入した。このプリントを活用することで、ニュースを分かりやすく伝えられるようにした。（写真6）

生徒が調べたニュースは、コロナ関連の記事が多かった。しかし、それ以外にも自分が所属している部活動と同じスポーツのニュースを紹介したり、地元のニュースを紹介したりと友達の興味を引くようなニュースを発信することができていた。特に、「選んだ理由／記事に対する感想や考え／賛成・反対の有無」では、本音を書いている生徒が多かった。そのため、それに対して周りの友達はどう思うか等さらなる議論に発展して、大変有意義な取り組みにすることができた。



写真5

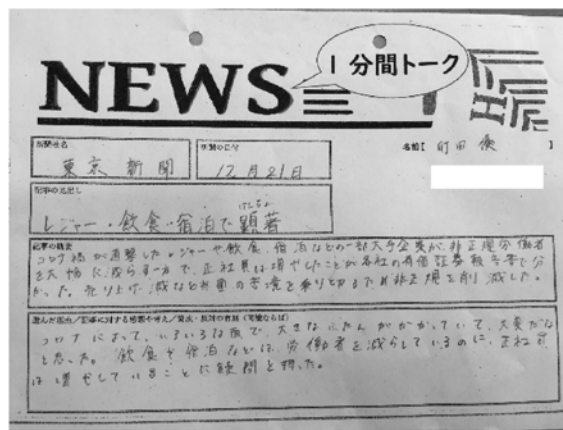


写真6

5. 実践の感想と今後の課題

【感想】

- ・生徒は今まで新聞に触れるという機会が少なかった。しかし、教室へ向かう通路に当日の新聞が複数置かれていることで、足を止めニュース等に触れる機会を持てた。また、帰りの会で話すニュースの内容も、最初は気になるニュースを紹介するだけに終わっていたが、徐々にそのニュースに対する自分の考えを話すことができる生徒が増えてきた。
- ・道徳の授業では、その時期にあった内容を扱うことで、道徳の教科書を使う授業よりも、生徒の反応がよかった。身近な問題としてとらえることができるため、自分のこととして考えやすかったようである。
- ・本校では、ICTの活用のためタブレットで読書をする取り組みも行っている。しかし、今年度NIEの実践に取り組むことで、新聞紙に触れることも大切だと感じた。

【課題】

- ・今年度は、道徳での活用、帰りの会での今日のニュースの紹介という活動がメインであった。多くの新聞を購読させていただいたため、他教科での活用や新聞の読み比べなど様々な活用方法を提案していく必要があった。
- ・現在話題や問題を授業で扱うには、資料やデータ（今回の実践例では、大谷選手の歩みの分かる写真や地図、記録など）を集め、授業実践する担当教員に提供する方法が簡潔になるとよいと思う。

新聞を用いて実社会とのつながりを考える教科指導の取り組み

ぐんま国際アカデミー中高等部

坂本

樹

今井 信一

1. 実践の概要

1. 1. 本校の教育の特徴

ぐんま国際アカデミーは小中高一貫のイマージョン教育を行っており、学年やコースにもよるが、半分以上の教科の授業で英語を教授言語としている。また、2012年より高等部の一部で国際バカロレアディプロマプログラム（DP）を提供している。また2019年度からすべての中高等部生に対して国際バカロレアミドルイヤーズプログラム（MYP）の候補校として学習指導を行っている。

1. 2. 取り組みのねらいとその理由

本校が実施する国際バカロレアプログラム（IBプログラム）では、指導方法の1つとして「ローカルな文脈とグローバルな文脈を反映した指導」を重視している。IBプログラムの理念が紹介されている。『国際バカロレア（IB）の教育とは』（2019）ではこの指導方法を、「実際の文脈と例を用いて指導し、新しい情報を自分の体験や周囲の世界に結びつけて消化することを児童生徒に奨励」することと説明している（p.7）。つまり、IBプログラムでは、生徒が各教科における学習内容と、現実の社会との結びつきを考えられるような指導が目指されている。

これらのことから、本校では様々な教科における学習内容と、現実の社会とを結びつけるための教材として、新聞を用いることとした。新聞に掲載される社会の様々な出来事を、各教科における「見方・考え方」でとらえていくことが、本校における取り組みのねらいである。

1. 3. 昨年度の反省点

本校は、昨年度もNIE実践指定校として取り組み、「他教科との連携を意識したNIEの実践」という課題を提示した。とい

うのも、たしかに教科の枠組みを超えて新聞記事を用いた実践を行うという方針は立てられていた。しかし、各教科において「どのような新聞記事を扱うか」

「年間指導計画の中のどのタイミングで、新聞記事を扱うか」といったことについては、十分に議論を深められていなかった。扱う新聞記事と指導計画をより詳細に共有し、扱う新聞記事やタイミングを複数の教科で合わせることが出来れば、生徒はさらに教科における「見方・考え方」を意識しながら、現実社会で起きる事象をとらえられる可能性がある。

したがって、今年度は教科毎に新聞を扱った事例を集めることからさらに進んで、教科横断的に、特定のトピックに関わる新聞を読み、実社会と教科指導とのつながりについて理解を深めるような実践を目指したい。

1. 4. 実践の方針

上記の課題をふまえ、本校では複数の教科で新聞を活用した授業を展開した。今年度は、国語科（中学1年生）と社会科（中学1、高校1年生）の授業を中心に、新聞を活用した。またその際、国語科での実践については、他教科の教員とも連携してトピックを定め、新聞を活用した。加えて、他の教科や学年にも取り組みを広げるために、新聞を図書館に置き、生徒の目に触れるよう工夫する。さらに昨年度より、本校では朝日新聞・毎日新聞・読売新聞・New York Timesの新聞記事データベースを購読していることから、それらのリソースも積極的に活用した。

（文責：坂本）

2. 授業における取り組み

2. 1. 中学1年生（MYP社会科）の取り組み：いっしょに読もう！新聞コンクール

中学1年生は基礎的読解力の向上と社会とのつながりを意識し、「第12回いっしょに読もう！新聞コンクール」に応募した。授業では7紙各10部を1週間分用意し、生徒に配布した。授業の前半では、気になる記事を3つピックアップし、なぜその記事が気になったのかペアで対話を行わせた。その結果、自分自身の興味関心を言語化することを通して、深く理解するよう促した。ピックアップした記事から、実際に記事をまとめる生徒がいる一方で、ペアワークの結果理解を深めたことによって、別の記事探しを行う生徒も現れた。また、興味関心をペアワークで対話させたことにより、記事をまとめる際のスキヤフォールディングを作ることができた。「家族や友だちなどにも記事を読んでもらい、その人の意見を聞きとって書いてください」の部分では、異年齢交流を意図して、保護者や教員など、年齢の上の人に聞き取りを行うよう促すことで、生徒の知見を広げることが出来た。実際に「話し合った後のあなたの意見や提案・提言を書いてください」の部分では確認した96%の生徒で知識や理解の深化や新しい気づきに関連する記述が見られた。また、取り組みが評価され、学校奨励賞を受賞した。

（文責：今井）

2. 2. 高校1年生（公民科現代社会）の取り組み：新聞切り抜き作品コンクール

本年度は、現代社会の授業の導入として、新聞切り抜き作品コンクールに取り組んだ。生徒は初めて手に取る教科書の目次に目を通し、同時に新聞紙面を読むことで、現代社会に関連のあるトピックを選ぶよう声掛けを行った。

また、新聞は太田市で手に入る7紙10部を30日間購読した。各新聞社の教材用価格での購入は、申し込み手続きが簡略だけでなく、費用も安価で、学校への導

入は非常に効率的・効果的であると感じる。

スキヤフォールディングのために、最初の授業では大まかなテーマ設定と関連する記事を1点集めて提出する課題を行った。その後、今後記事を集めるテーマをクラス内で発表させ、似たテーマを選択した人同士でグループを組むことを促進し（課題は1人から4人で取り組むこととした）、またグループを組まなくとも記事集めを協力するよう声掛けを行った。ポスター作製には3週（6時間）程度の時間を提供し、記事の配置やテーマ設定の理由・まとめなどを記述させた。なお、新聞記事探しの際に、本校が契約している読売新聞・朝日新聞・毎日新聞の記事データベースの使用は非常に有益であった。各新聞社はこれらとは別にニュースサイトを持っているが、ニュースの投稿日・内容と紙面は一致しておらず、こちらで検索を行った生徒は記事探しに苦労しているようであった。紙の新聞と新聞社のデジタルニュースは、どちらをより活用していくか様々な意見はあるものの、配置や大きさなどが直感的に分かる紙面と、速報性や検索性に優れるデジタルのそれぞれの良さをうまく生かしながらNIEを進めていくことが効果的であると感じた。

最終的に作成された切り抜き作品ポスター60点を出品し、本校から優秀賞1名、入選に2名の生徒が選ばれた。

（文責：今井）

2. 3. 中学1年生（MYP社会科）高校1年生（公民科現代社会）の取り組み：新聞読み比べ

本年度は10月31日に行われた総選挙の結果を報じた11月1日付の朝刊7紙（朝日・毎日・読売・日経・産経・東京・上毛）の比較を行った。授業は高校1年生は1時間、中学1年生は2時間で構成した。

高校1年の前半部と中学1年の授業では、授業の目的を確認したのち1-3面と社説面のコピーを配布した。その後、3-4人のグループ内で分担して7紙の1面と社説の見出しをワークシートに抜き出し

た。その後、社説やその他の記事を分析しながら、各新聞社が選挙結果、特に自由民主党が過半数の議席を獲得したことに対してどのように報じているか、重要な部分にマーキングを行った。

授業の後半（中学生は2時間目）では、各新聞社の記述について情報交換を行った。授業の総括として、各新聞社が選挙結果を肯定的に評価しているかどうかについて評定した。

また、授業を通して生徒の意識がどのように変化したのかを分析するため、事前・事後のアンケートを行った。選挙結果が国民にとって良かったかを判断させる問い（表1）では、「どちらともいえない」がやや減少し、生徒の中で意見や立場の形成が促進されたといえる。また、先の問いにどの程度自信を持って答えられたかについての問い（表2）では、全体として学習前よりも自信をもって結果が良かったかどうか判断できるようになったと言える。

表1：「今回の選挙の結果は、日本（国家全体や国民）にとって良いものだと思いますか？」に対する回答（高校1年）

	事前	事後
非常に良い	4.8%	5.5%
良い	16.1%	23.6%
どちらともいえない	67.7%	54.5%
悪い	8.1%	16.4%
非常に悪い	3.2%	0%

表2：「先（表1）の質問にはどの程度自信を持って答えましたか。」に対する回答（高校1年）

	事前	事後
非常に自身がある	4.8%	3.6%
やや自信がある	27.4%	58.2%
どちらともいえない	50.0%	34.5%

やや自信がない	8.1%	3.6%
まったく自信がない	9.7%	0.0%

（文責：今井）

2. 4. 中学1年生（MYP国語科）での取り組み

中学1年国語科では、地域社会における魅力と課題を発見するための素材として、新聞記事を活用した。今年度、当学年では「『不便』の価値を見つめ直す」という文章を中心に据えた単元指導を実施した。この文章は、教科書教材（光村図書）として掲載されており、「不便さ」の中に隠れているメリットを見つけ出すというものの見方の重要さを伝えている。この文章をもとに、本単元では、身の回りにある「不便なもの」を見つけ、その「不便さ」の良いところを雑誌記事にするという学習活動を実施した。その過程において、群馬県の南牧村に関して調査を進めるため、新聞記事を活用した。また、南牧村に関する調査を進めるため、JICAが主催する「教員のためのSDGs研修」に参加した家庭科教諭の協力を得て、準備を進めた。

実際に新聞を使用したのは、南牧村について、生徒たちに紹介をする場面である。生徒たちには、事前に南牧村が「日本で最も少子高齢化が進んでいる村」であることを、動画を用いながら伝えてある。そして、そのようなマイナスのイメージを持つ南牧村に、若者や外国人が移住してきているという新聞記事を、生徒たちは読んだ。



地域に溶け込む気持ちよさ

神奈川産業建設の井上優人さん（41） トイレトレーニングの大会で、人口100人の村に訪れる300人近いランナーに食料を提供し、多くの住民が「自分の手で」町に関わりを持っている。「役割を持つ」実感があれば、自然と地域に愛着が生まれる。

南牧村教育委員会事務局の佐藤剛行さん（44） 児童が少ない分、一人ひとりの教育に人とお付き合いをできる。つまり未来にきめ細かい投資ができる。子供たちと地域の大人が、授業や行事で密に触れ合うことで「このまちで生きる」未来を想像してもらえ。

東京から南牧村へ移住したハンガリー人、フォルゴ・チオダーキさん（35） 暮らしの古民家で水道が詰まれば近所の人々が助けてくれる。反対に、お母さんにインターネットの使い方は教えられる。お互いを当たり前に助け合えることが、人として自然。

東川町でコーヒー店を営む曾田芳範さん（51） 車で1時間の圏内にも川も海もある。「都」とは距離の感覚で、かつ生活のための都市機能から離れず暮らすに憧れていた。「できる範囲」「ゆるく長く」で、地域に溶け込んで気持ちよく生きられる。

「人口信仰」からの脱却（朝日新聞、2021）より抜粋）

生徒たちは、この記事を読んだのち、南牧村で生活する人にどんな質問をするかを考えた。この活動で挙げた質問は、家庭科教諭の協力のもと、高校1年生の生徒たちが、実際に南牧村を訪れ、現地の人々に取材をした。筆者もまた、この現地訪問に同行した。

生徒たちは、南牧村に関する新聞記事を読むことで、生徒たちの視点からすれば「不便」と感じるような地域にあるメリット（不便益）について考える良いきっかけとなった。加えて、家庭科教諭との協力のもと、上級学年の生徒が現地を訪れ、当該学年の生徒が感じた疑問を聞いてくることができた点も、生徒に実生活とのつながりを意識させる要素となった。

（文責：坂本）

3. 考察と課題

今年度、本校では複数教科における学習内容と、現実の社会とを結びつけるための教材として新聞を用い、新聞に掲載される社会の様々な出来事を、各教科における「見方・考え方」でとらえていくことを研究課題とした。

本校で得られた成果として、生徒が様々な教科の「見方・考え方」にそくして、新聞記事を読むことが出来た点をあげることができる。例えば、中学1年生は今年度、社会科と国語科で新聞を用いた学習に取り組んだ。同じ新聞という教材を扱っていても、社会科と国語科では扱い方の観点が異なる。生徒が新聞記事を読むにしても、各教科が中心に扱う観点にしたがって様々な読み方を試すことが出来た点は、複数の教科で新聞を用いた教育活動に取り組んだ成果と言える。また、今年度は他教科の教諭と協力関係を結びながら、新聞記事に書いてある事象をさらに現実の世界と結びつけることができた。新聞というテキスト上の情報からさらに進んで、現地の情報に当たれた点は、生徒に実社会と学習内容とのつながりを意識してもらうことに役立ったと考える。

一方で、他教科との連携には、今後につながる課題もある。例えば、各教科において「どのような新聞記事を扱うか」「年間指導計画の中のどのタイミングで、新聞記事を扱うか」といったことについては、まだ十分に議論を深められていない。扱う新聞記事と指導計画をより詳細に共有し、扱う新聞記事やタイミングを複数の教科で合わせることで、生徒はさらに現実社会で起きる事象と、学びのつながりを捉えることができる。

上記の課題を解決するためには、今後も教科の枠組みを超えた議論が必要となる。実際に、今年度は国語科と家庭科の教諭が、共通のトピックに関心を持ったことで、連携を取ることができた。このように、実践を通した具体的な知見の蓄積によって、少しずつ教科の連携を意識した新聞活用の教育を進めていきたい。

（文責：坂本樹）

引用・参考文献一覧

- 国際バカロレア機構 (2019). 国際バカロレア (IB) の教育とは. International Baccalaureate Organization.
松田果穂・近藤康太郎 (2021,4, 25). 「人口信仰」からの脱却. 朝日新聞. p. 7.

新聞記事を活用して、自分の考えをもったり、 自分の意見を書いたりできる生徒の育成

沼田市立薄根中学校

教諭

新井久仁美

1 実践の概要

本校は、NIE 実践校として指定を受け、4 年目の実践を行ってきた。

- (1) 国語科での実践
- (2) 技術科での実践
- (3) 上毛新聞ひろば欄への投稿

2 新聞の置き場と整理の方法

配送された新聞を多目的室前の廊下に置く場所を設け、新聞の名前が見えるように立てて掲示した。特集記事や生徒に関心をもってもらいたいような記事は平置きにして掲示した。



3 実践内容

- (1) 国語科での実践

①教材名「意見文 根拠を明確にして考えを述べる」－複数の新聞記事を比較し、意見文を書く－

②教材の目標

「自らの考えを説得的に伝える」文章として意見文についての学習をする。本教材では、説得的に伝えるための方法の一つである「根拠を明確に」して考えを文章にまとめるポイントを集中的に学習することをねらいとしている。

③本時の学習

1) 目標

新聞のよさを知り、比較してそれぞれの新聞の特徴を話し合い、一つの記事の内容について理解することができる。

2) 展開

課程	時間	主な学習活動	指導上の留意点
導入	5	・新聞のよさについて発表する。 めあて 新聞を比較しそれぞれの特徴を出し合い、一つの記事の内容を理解しよう	・前回考えた新聞のよさを発表させる。 ・今日の学習内容を捉えさせる。
展開	40	・3つの新聞を見て、それぞれの特徴について意見を出し合う。 ・ページ数 ・一面の記事 ・テレビ番組表の場所 ・社説の内容 ・その他	・観点を絞って気づけるようにさせる。 ・3人グループで一人一新聞の特徴を見つけ共有させる。 ・クロームブックに記事を送る。 ・どんな内容なのか確認する。

			
		・上毛新聞に掲載された記事を提示し、内容を理解する。	
終 末	5	振り返り 新聞を比較してわかったことや記事の内容がどんな内容だったか振り返る。	・何について振り返るのか伝える。 ・次回の学習で記事の内容について意見を作ることを伝える。 (三角ロジック)
評価項目 ・新聞をみて、それぞれの新聞の共通点や相違点に気づき、記事の内容を理解することができる。 (ノート・振り返り)			

④成果と課題

○成果

- ・何紙かを比較することでそれぞれの新聞について観点ごとにグループで興味をもって調べていた。
- ・クロームブックを使うことで、各紙の特徴をみんなで共有できていた。

○課題

- ・日頃から新聞に触れる機会が少ないため、新聞の構成がよくわかっていなかったため、新聞コーナーに立ち寄る習慣をつけさせたい。

(2) 技術科の実践

①題材名 「これからの発電方法を考えよう」 B エネルギー変換に関する技術

②題材の目標

エネルギー変換に関する基礎的・基本的な知識を習得するとともに、エネルギー変換に関する技術が社会や環境に果たす役割と影響について理解を深め、エネルギーに関する技術を適切に評価し活用する。

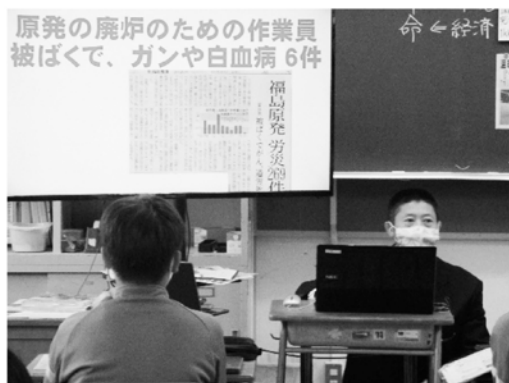
③本時の学習

1) 本時のねらい

今までの学習を振り返り、新聞記事・書籍等の資料や外部講師の話をもとに環境面・社会面・経済面の視点で見極め 2030 年の日本の発電電源構成（エネルギーミックス）を考えることができる。

2) 展開

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
○前時までの活動を振り返る。 ○本時の学習内容を確認する。	5 つかむ ①	○風力発電の実験、照明機器の実験の様子を記録した写真・実験器具等を提示し、今までの学習を振り返らせる。 ○改訂前の教科書に比べ、改訂後の教科書に CO² 排出量 と 発電にかかる費用 の表記が強調されるようになった意味を考えさせ、環境面と経済面の 2 つの側面について考えることの重要性に気づかせる。 ○社会や理科の学習においても扱われる CO² 排出による温暖化・気候変動の影響について説明し、緊急課題であることを理解させる。 環境・経済・社会の視点から 2030 年の日本の発電電源構成（エネルギーミックス）を考えよう。
○これまでの学習で調べた発電方式の長所・短所をもとに班ごとに考えた発電電源構成を発表する。	20 つかむ ②	○端末を用い、班ごとに発表させる。（各班 3 分の発表 全 4 班） ○一つの班の発表ごとに外部講師からの助言を受けることで、問題点や課題等に気づかせ、後半の個人での発電電源構成を活動につなげさせたい。
○発電方式の長所・短所、および、世界や日本で起きている現象や若者の運動について理解し、自分の考えをもつ。	5 追求 ①	○全ての発電方式に長所も短所もあることを画像や動画で解説する。 ○国連気候変動枠組条約第 26 回締約国会議（COP26）の開催期間中に取り上げられた新聞記事を紹介することで、国際的にとても重要な問題であることを理解させる。140 カ国の首脳が参加したことも伝える。 ○新聞記事とその要約をまとめた PDF 資料を生徒端末に送信し、印象を受けた新記事を一つ選択させる。
○環境・経済・社会の視点から 2030 年の日本の発電電源構成（エネルギーミックス）を考える。	13 追求 ②	○新聞記事や指導者・外部講師の話等を踏まえ、環境・経済・社会の視点から 2030 年の日本の発電電源構成（エネルギーミックス）を考えさせる。その際に、政府が示した電源構成と比較し、発電方式ごとに増やした理由・減らした理由などの根拠を示させる。 ○指導者と外部講師は机間指導を行い、発電電源構成を考えるのが困難な生徒に対し、どの問題・どの新聞記事が印象的であったかを聞きだし、その問題を解決する方法・方策を助言する。



		
○本時のまとめ	7	○今後の生活において、選挙権を得たときにエネルギー問題について自分の意見・意思をもてるよう今後も学んでいく必要があることを伝える。 ○外部講師からの指導・講評を受ける。 ○学習を振り返った感想を記述させ、数名の生徒に発表させる。
【評価項目】 ○環境・経済・安定供給の観点から持続可能な発電・エネルギーミックスを考えることができる。 (円グラフの作図・ワークシート・感想の記述)		

④成果と課題

○成果

- ・新聞記事や図書資料をもとに発電方式の長所短所を調べたことは、発電電源構成を考えるのに役だった。
- ・ICT を活用し、グラフやプレゼン資料を作成させることで生徒の思考を表現させることができた。

○課題

- ・新聞記事に興味をもったが、内容が難しかったため、教師が簡単に要約しないと理解しづらかった。

(3) 上毛新聞ひろば欄への投稿

今年度も日常の思ったこと、考えたことを書いた作文や、国語の授業で書いた文章の投稿を行った。新聞に投稿すること、不特定多数の人に読まれるということを意識して取り組ませた。

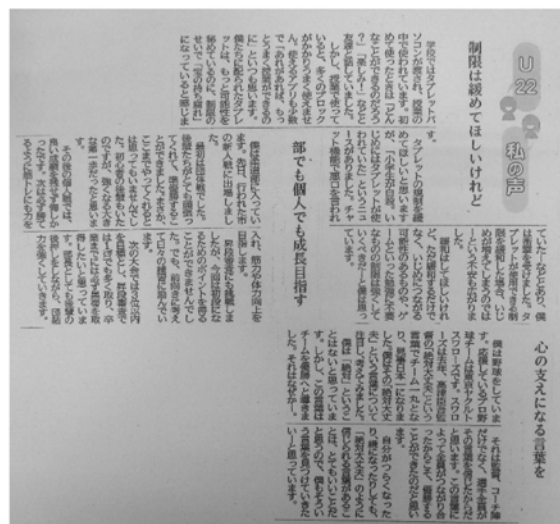
4 感想と今後の課題

〈成果〉

- ・授業の中で新聞を活用する教師が増えた。
- ・新聞記事に自分の投稿が載ることで興味をもって新聞に触れる生徒が増えてきた。

〈課題〉

- ・NIE への取り組みに全校で取り組むためには組織作りをする必要があると思った。



「新聞を通じた企業の分析能力の育成」

群馬県立高崎商業高等学校

1 はじめに

昨年から引き続き、NIE 実践指定校としてやらせていただけることとなり、今までの実践の反省も踏まえ今年度をスタートした。本校は1学年280名、⑦クラス編成の専門高校である。地元での就職希望者が多く地域に貢献する生徒を育成する指導をおこなっているが、BtoC の企業に対しての理解は深いが、B to B 企業などの知識は皆無に等しく、地元にある優良企業を進路指導で薦めてもあまり乗り気でない生徒も多い。就職した直後に自分の抱いていたイメージとのギャップに苦しみ離職をしてしまう生徒もいる。そのため1年次から企業や業種に関する理解を深めるように新聞を活用することにした。授業に関しては強化商業の必修科目である「ビジネス基礎」を対象にした。

2 実践の概要

(1) 購読計画と整理の方法

昨年度に引き続いて読売、朝日、毎日、産経、東京、日経、上毛の7紙を12月から3月末日までの間、配達していただいた。昨年度は商業科準備室へ設置して、新聞を閲覧できるようにしたが、生徒から「気軽に見に行きにくい」「入れない時間がある」「新聞を閲覧するスペースが狭い」等の声を受け、本年は図書室内に NIE 専用スペースを設け気軽に長時間でも見られる体制を整えた。3年生には特に好評で、推薦入試や就職の面接試験前には特に賑わいを見せた。



〔図書室に設けられたN I E コーナー〕

(2) 実践の内容

①授業の初めに毎回、地元企業の取り組みや活躍の記事を紹介した。県内の県立高校生に一人一台配布されている Google 社の「g o o g l e c l a s s r o o m」を用いて週に三回程度PDF形式の記事を紹介した。学年でアンケートをとったところ新聞を購読している家庭は278人中106名で生まれてから家庭でとったことがないという家庭も一定数存在した。各クラスに毎朝、新聞を読んでから登校する生徒もいて環境に差異が見られた。

1年生ということもあり開始当初は読むのに時間がかかる生徒もいたが、慣れていくにつれて、読むスピードが上がり、筆耕者が訴えたいことを自分なりに捉えることができるようになった。2学期からは短い感想文形式にまとめ提出させた。課題の提出はすべてオンラインでおこった。本年度はコロナ禍の影響で分散登校や休校期間もあったが、PDF形式で読みオンラインで提出する習慣ができていたために学びを止めることなく1年間を過ごすことができた。

②年度の終わりに上毛新聞の連載記事「老舗のDNA」12回分を読み、長く続く企業にはどのような共通点があるのか、成功のポイントは何だったのかを分析しレポートにまとめた。企業数が多いので4人～6人のグループ研究をおこなった。

レポートには以下の項目を準備した。

【はじめに】

【企業ごと分析】

【企業独自の取り組み】

【成功の秘訣】

【成功企業の共通点】

【検証手順】

【実証するデータ】

【まとめ】

1年間を通して定期的に地元企業に関する記事を読み、筆耕者の意図をくむ努力をしたことにより、企業分析がスムーズにできた。

最終編集: 2月1日

ビジネスの先輩から学ぼう！

ビジネスの社会には正解はありません。多くの人たちが様々なビジネスを展開していますが、それぞれ社会状況やニーズをみきわめ、変化に対応して成功しています。授業でも話をしましたが、ビジネスのBESTはなくBetterです。

しかしやみくもに勘で行動することはBetterではありません。経験や市場調査、データの分析などをして上で行動することが求められます。今回は上毛新聞の連載「老舗のDNA」を読んでそれぞれの企業がどのように成功を取めたのか分析し学びましょう。皆さんが見たことある企業でも様々な取り組みを行っています。

1 連載リスト

No	企業名	概要
1	フレッセイ	みんな大好き。高登生も通っているスーパーです。
2	正田醤油	館林にある有名な醤油会社です。
3	ホリグチ	渋川市にある建設資材の専門会社。携帯電話販売など多角的な事業を展開する。
4	牧野酒造	高崎市倉洲にある県内最古の造り酒屋。創業300年以上！
5	平方木材	住宅用資材を販売する事業者。

〔実際に提出されたレポート①ドキュメントによる作業〕

NE学園 印刷 表示 挿入 文字形式 データ ツール 拡張機能 ヘルプ 最終編集: 1月31日 (提出前(国語生)さん)

100% 印刷 125% デフォルト

1 新聞とインターネットのメリットデメリットを考えよう				2 インターネット			
新聞		インターネット		新聞		インターネット	
メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット	メリット	デメリット
物として残る	書き換えができない	深い情報で情報を得ることができる	情報の加工・偽造が容易である	物として残る	書き換えができない	深い情報で情報を得ることができる	情報の加工・偽造が容易である
参考としている資料がある	読みたい記事を探すのに時間がかかる	書き換えができる	読みたい記事を探すのに時間がかかる	参考としている資料がある	読みたい記事を探すのに時間がかかる	書き換えができる	読みたい記事を探すのに時間がかかる
速く書かれている	記事に偏りがある	自分の知りたいことを調べることができる	記事に偏りがある	速く書かれている	記事に偏りがある	自分の知りたいことを調べることができる	記事に偏りがある
様々なニュースが簡単に知ることができる	更新するのが遅い	その記事に関連するものを発見できる	更新するのが遅い	様々なニュースが簡単に知ることができる	更新するのが遅い	その記事に関連するものを発見できる	更新するのが遅い
TikTok	正しい情報を得られる	知りたいニュースがないことがある	動画がある	TikTok	正しい情報を得られる	知りたいニュースがないことがある	動画がある
2 自分が信頼している情報源は何か?	持ち運びができる	新聞紙を取るのにお金がかかる	無料で読める、買える	2 自分が信頼している情報源は何か?	持ち運びができる	新聞紙を取るのにお金がかかる	無料で読める、買える
一位 二位 三位	気にならないう情報も読める	文字が小さい	入イネ等で読める(コンパクト)	一位 二位 三位	気にならないう情報も読める	文字が小さい	入イネ等で読める(コンパクト)
TV	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	TV	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
TVは無料インターネットを見ています	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	TVは無料インターネットを見ています	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
新聞は結構よく書いてある	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	新聞は結構よく書いてある	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
グラフが多い	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	グラフが多い	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
一人の書いた情報よりも沢山の人の書いた情報の方が信頼できる	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	一人の書いた情報よりも沢山の人の書いた情報の方が信頼できる	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
沢山の情報がとれた情報	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	沢山の情報がとれた情報	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
自分が実際に見た情報	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	自分が実際に見た情報	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
様々な新聞から情報を得たまま、雑誌	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	様々な新聞から情報を得たまま、雑誌	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない
信頼性が低いというものは	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない	信頼性が低いというものは	読後感に悩まない	読後感に悩まない	読後感に悩まない

インターネット情報を持っていないので情報検索が出来る子供や難しい人、調査環境が悪いところ

〔実際に提出されたレポート②スプレッドシートによる作業〕

③定期的に新聞を読み、地元企業への理解や新聞の読み進める能力が醸成されたのを見て「ビジネス基礎」の授業において「ビジネスの先駆者から学ぼう」という授業を3時間かけておこなった。

以前からよく知る、B to C の企業と高校生が普段知ることのできない B to B の企業を選び地元企業への理解を一層深めた。

4～6人でグループを組んでいたが、授業では研究した企業が共通しているメンバーで情報交換をして、それぞれの企業に対しての考察を深めた。一人一人のアプローチや視点の違いに気づき、補完を行った。それぞれのメンバーが企業による分析や内容を修正、発展させ自分のグループに持ち帰り発表をおこないメンバー一人ずつが自分にとってどの企業が一番働いてみたいかを自分の意見と交えて発表した。授業後のアンケートでは「県内に今まで知らなかったが実績を残している企業があると知り、仕事に対する意識が変わった」「進路室で求人票を見てもっと多くの企業に注目したい」という感想や「自分の近所であって昔から知ってる会社がこんなことをしていてびっくりした」と答えた生徒がいた。1年生の早い段階から研究をしたことによって意識付けがしっかりできたと感じた。今回の授業では B to G などの業態は説明しなかったが2年次の発展的な内容では説明をおこないたい。





〔PDFでchromebookに配布した記事の一例〕



3 考察と課題

高崎商業高校では就職希望者が多いことも相まって、真剣に取り組んでくれた。授業後家庭で新聞の購読を始めた生徒もいて、新聞の有用性に気づき継続して読みたいと感じたようである。今回の実践では地元企業にのみスポットを当てたが、国際面や、全国の経済面などにも視野を広げ関連を見ながら考えられる生徒を育成したい。また定期的に記事の紹介を続けていき小論文指導や進学指導にも役立てていきたい。

本年度は2年目ということもあり昨年の反省も踏まえより効果的な実践を進めることができた。研究を深めこれからの授業でも有効に新聞を活用していきたい。

本校におけるNIEの取り組み

学校法人群馬常磐学園 常磐高等学校 教諭

佐々木 毅

・はじめに

今年度、NIE 実践校の認定をいただき、高校2年次の総合の時間において、新聞を使って探究学習を進めることができた。

高校1年次では総合の時間に基本的な探究スキルである「情報収集」「情報の取捨選択」を学んだ。そのスキルを活かす機会として太田市にある金山周辺の情報収集をさせた。ほとんどの生徒は情報収集をする上で、学校貸与のタブレットや校内のパソコンを用いて調査していた。ここでは情報の信ぴょう性や、自分の知りたい情報を検索すれば直接答えまでたどり着ける利便性に潜む情報の取捨選択の機会の喪失など、様々な課題点が出た。また、生徒は常にインターネットが周りにある環境で生活しており、情報収集のツールはほぼインターネット一択の状況だった。

そこで高校2年次では、九州修学旅行における探究活動に新聞という情報メディアを取り入れることで、生徒一人一人が修学旅行で得られたオリジナルの情報（体験知）をどのように表現するかという情報の発信にまで探究スキルを広げることを目的とした。また、紙面という限られたスペースで伝えたい情報をどのように絞っていくかという高校1年次の探究スキルの総復習という面でも新聞を活用した。

なお、今年度のNIEは常磐高校特別進学コース2年S組に限定して行った。

・新聞の置き場と整理の概要

高校2年生の教室後方のロッカーへ新聞社ごとストックした。毎日の新聞を生徒が交代で仕分けし、「新聞を手にする」機会を作った。また、教員が新聞記事を教室設置前に確認し、各教科の授業で取り入れられそうな内容があれば付箋を貼って注目させるなど、教室にただ置くだけではなく、教科を横断して活用できるように工夫した。

・実践の内容

1 メディアの違いについて

生徒に新聞を家庭でとっているか、新聞を日常的に手にしているかを総合の授業内に確認したところ、新聞をとっている家庭は生徒23人中12人、さらに生徒自らも新聞を定期的に購読しているかという質問については日常的に購読していると回答した生徒はいない状況だった。

では、どのような媒体で情報を得ているかという質問に対してはテレビが15人、ネットニュースやSNSが8人だった。やはり情報化社会の中心となるインターネットは生徒が触れる情報の大部分を占めているのが現状である。中でもスマートフォンはどこでも情報

を手に入れられる手軽さと、気になる情報をネットで調べて深掘りできる点や多くの人の意見を参考にできることなどが選ばれる要因だった。

しかし、あたかもネットニュースの情報が真実に近い情報であると思い、情報をうのみにして「知り得た」と感じたりインターネットや SNS での情報に対する「コメント」を目にするだけで、意図せず大多数の意見に自分の考えを合わせてしまう可能性もある。

そのため、場面に応じて適切にメディアを選ぶことも必要であると授業の中で説明した。そして新聞・ラジオ・テレビ・インターネットそれぞれのメディアの特徴（長所と短所）と有効な使用場面について生徒からの意見をまとめた。

2 生徒の興味関心にしたがって記事を見つける（情報の収集）

生徒の新聞に触れる機会を作る目的と新聞記事の表現に着目させるため、生徒に興味関心のある記事を収集させた。また国語科との教科横断型学習の一環として、その記事の要約や記事に対しての感想など、自分の視点や意見を確認する時間を作った。

さらに、興味関心を示した新聞記事と自分の日常の出来事を関連付けてコラムを書くことにも挑戦した。

生徒は今持ち得る表現力を駆使しつつ、新聞記事（社会の出来事）と自分の身の回りで起きたこと（身近な出来事）との関連性を見出そうとしていた。



プリント裏面 生徒記入

3 「新聞」というメディアへの理解を深める

新聞というメディアにおける情報の信ぴょう性や発信者（新聞記者）による情報の表現の違いについて、上毛新聞社の記者に出前講座をいただいた。「新聞の歴史」「新聞記事の書き方」「新聞記者としての経験談」など、授業ではなかなか知り得ないことを学ぶことができた。「新聞の歴史」では古くからある文字によるメディアと人間の関わりを、貴重な資料とともにお話しいただいた。「新聞記事の書き方」では見出しのつけ方や有効な

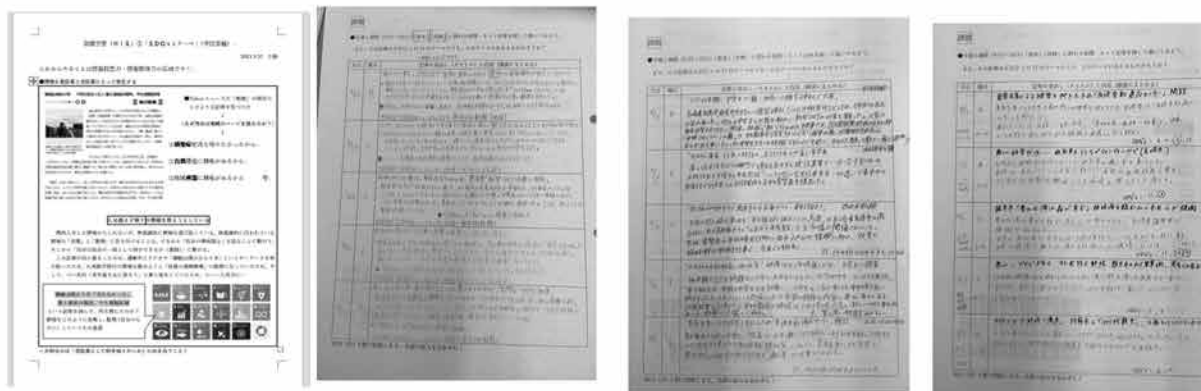
写真の使用法など、この後に控えている九州修学旅行の報告書作成につながる内容だった。そして「新聞記者としての経験談」は生徒にとってもっとも知りたい職業進路選択についての話で、生徒だけでなく教員からも様々な質問が飛び交った。



出前講演いただいた時の上毛新聞 2021.11.22

4 九州修学旅行と絡めて「熊本」「長崎」の情報を収集

九州修学旅行の事前学習として、生徒自身に修学旅行先である熊本県と長崎県に関する新聞記事を集めさせた。さらにただ情報を集めるのではなく、九州修学旅行の肝となる「SDGs」のテーマ選択につながるように情報の収集と取捨選択を意識させた。「平和」や「自然」など群馬県でも入手しやすいテーマもある中で、「地域産業」や「海洋資源」などなかなか見かけない情報もあり、情報の収集に苦戦していた生徒もいたが、それも「時間をかけて知りたい情報を意識的に探さなければならない」という新聞の持つ特性を理解する契機となった。



熊本、長崎について1週間分の情報収集した。また自分の収集した情報がSDGsの17のテーマではどれに該当するものか書かせた。

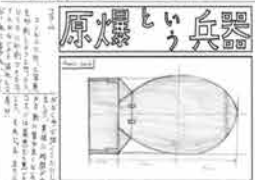
5 九州修学旅行のまとめとしての新聞作成

生徒が事前に興味関心にしたがって収集した情報から、自らの問いや課題を設定、修学旅行中に体験したこと、現地で直接見聞きしたことを新聞形式でまとめた。新聞記事は廊下に掲示し、生徒同士が同じ見学地に行っても着眼点や感じ方には違いがあることを確認させることに役立てた。また、高校1年生に対して次年度の修学旅行のイメージを膨らませてもらう意味でも、生徒の文章や写真（絵で説明している生徒もいた）を用いて表現を凝らすことを重要視した。

～以下は生徒が書いた修学旅行の報告書としての新聞記事～

書買新聞
九州修学旅行
2021年1月 日
元木 肇

原爆の兵器



原爆の兵器は、戦争の終結を告げるための武器である。しかし、その使用は人類の未来を脅かす。私たちは、原爆の兵器を廃絶し、平和を築くべきである。

修学旅行 in 熊本
熊本の現在と未来



熊本の歴史と文化を学び、未来を築く。熊本の魅力を発信し、観光客を呼び込む。熊本の未来は、私たちの手で描かれる。

人気観光スポット
ハウステンボス



ハウステンボスは、オランダの文化と自然を体験できる観光地である。多くの観光客が訪れ、楽しんでいる。ハウステンボスの魅力を発信し、観光客を呼び込む。

平和の重要性再確認
まとめ新聞



平和の重要性を再確認し、未来を築く。平和は、人類の未来を保障する。私たちは、平和を築くべきである。

原爆の被害者
長崎原爆資料館

長崎原爆資料館は、原爆の被害者を追悼し、平和を築くための施設である。多くの観光客が訪れ、学んでいる。長崎原爆資料館の魅力を発信し、観光客を呼び込む。

修学新聞
原爆から七十七年、平和への想い



原爆から七十七年、平和への想いを伝える。平和は、人類の未来を保障する。私たちは、平和を築くべきである。

軍港クルーズ



軍港クルーズは、軍港の歴史と文化を体験できる観光地である。多くの観光客が訪れ、楽しんでいる。軍港クルーズの魅力を発信し、観光客を呼び込む。

修学旅行新聞
平和の尊さ実感



平和の尊さを実感し、未来を築く。平和は、人類の未来を保障する。私たちは、平和を築くべきである。

貴重な文化財庭園
そしてたくさんの鶴



貴重な文化財庭園と、たくさんの鶴を体験できる。庭園の魅力を発信し、観光客を呼び込む。

平和新聞
戦後から79年



戦後から79年、平和への想いを伝える。平和は、人類の未来を保障する。私たちは、平和を築くべきである。

南島の歴史と文化



南島の歴史と文化を体験できる。南島の魅力を発信し、観光客を呼び込む。

・課題

1 学年 1 クラス限定での NIE の実践であるため、今後は学校全体に広げて行くことがさらなる生徒同士の学びの深化につながると考える。学校内における情報収集の場所が P C 室だけにならぬよう、生徒に新聞に触れる時間を増やしていきたい。

・今後の展望

修学旅行で得られた経験を、実際に現地に行っていない他者に対して表現する際、何について興味関心や疑問点をもって調査したのか、その結果どんな答えを見つけたのか正確に伝えるための工夫できていた。

今年度 NIE で培った①情報に触れて様々な媒体から情報を収集・取捨選択する②自ら課題を発見して問いを立てる③自らの問いに対する答えをどう見つけていくか考える④体験を通じて問いに対して自らの答え（意見）を発見というサイクルを今後の学習に役立ててほしい。

継続的に NIE を総合や探究活動に組み込むことで、他教科や進路目標設定にも発展できると考える。

【これまでの実践校】

- ◆2004年度 笠懸中、万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2005年度 万場高、創世中等教育、昭和南小、高崎大類小
- ◆2006年度 伊勢崎境剛志小、伊勢崎境西中、太田東中、西邑楽高、富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中
- ◆2007年度 富岡高瀬小、高崎寺尾小、前橋新田小、前橋一中、高崎西部小、太田沢野中央小、太田生品中、沼田小
- ◆2008年度 太田沢野中央小、太田生品中、沼田小、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、館林高定時制
- ◆2009年度 太田生品中、伊勢崎四中、館林二中、太田女子高、尾瀬高、板倉北小、前橋元総社中、太田高
- ◆2010年度 太田生品中、板倉北小、前橋元総社中、太田高、桐生新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高
- ◆2011年度 板倉北小、新里北小、前橋大利根小、伊勢崎殖蓮中、勢多農林高、高崎城東小、太田西中、太田強戸中
- ◆2012年度 前橋原小、高崎片岡小、伊勢崎豊受小、千代田東小、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、館林商工高
- ◆2013年度 前橋原小、伊勢崎豊受小、千代田東小、高崎高松中、桐生広沢中、太田西中、太田強戸中、昭和中、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2014年度 群馬大附属小、伊勢崎豊受小、高崎高松中、太田西中、沼田南中、昭和中、藤岡中央高、西邑楽高、館林商工高、群馬法科ビジネス専門学校、大泉保育福祉専門学校
- ◆2015年度 群馬大附属小、高崎南小、桐生川内小、太田西中、沼田南中、館林四中、甘楽二中、藤岡中央高、西邑楽高
- ◆2016年度 高崎南小、桐生川内小、昭和東小、館林四中、甘楽中、前橋富士見中、高崎一中、沼田南中、太田西中、西邑楽高
- ◆2017年度 昭和東小、沼田利南東小、高崎新高尾小、桐生相生中、太田東中、前橋富士見中、高崎第一中、沼田沼田南中、尾瀬高
- ◆2018年度 高崎新高尾小、沼田利南東小、太田東中、桐生相生中、高崎大類中、嬬恋中、沼田薄根中、伊勢崎高、尾瀬高
- ◆2019年度 沼田利南東小、館林八小、高崎大類中、高崎一中、沼田薄根中、嬬恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高
- ◆2020年度 太田綿打小、館林八小、沼田薄根中、高崎一中、嬬恋中、ぐんま国際アカデミー中高等部、伊勢崎高、吉井高、高崎商

2022年6月発行

2021（令和3）年度

群馬県N I E実践報告書

編 集 群馬県N I E推進協議会事務局

発行者 群馬県N I E推進協議会

事務局 〒371-8666 前橋市古市町1-50-21

上毛新聞社内

電話 027-254-9933（編集局代表）

<http://www.gunma-nie.org>
